



大阪市立大学
工学部同窓会

大阪市立大学工学部同窓会報 第37号

2021年12月20日発行

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06(6607)8373

FAX 06(6605)2769

発行人 斉藤 寿士

同窓会だより

(定価) 8
(送料) 9
(郵送料) 10
平成18年「工学部同窓会の会」の案内……20

大阪市立大学工学部同窓会 第34号
2018年(平成30年)12月20日発行
大阪市住吉区杉本 3-3-138
TEL 06(6607)8373
FAX 06(6605)2769
発行人 齊藤 寿士

大阪市立大学工学部同窓会 第35号
2019年12月20日発行
大阪市住吉区杉本 3-3-138
TEL 06(6607)8373
FAX 06(6605)2769
発行人 齊藤 寿士

大阪市立大学工学部同窓会 第36号
2020年12月20日発行
大阪市住吉区杉本 3-3-138
TEL 06(6607)8373
FAX 06(6605)2769
発行人 齊藤 寿士

大阪市立大学工学部同窓会 第37号
2021年12月20日発行
大阪市住吉区杉本 3-3-138
TEL 06(6607)8373
FAX 06(6605)2769
発行人 齊藤 寿士

大阪市立大学工学部同窓会 第1号
1980年10月10日発行
大阪市住吉区杉本 3-3-138
TEL 06(6607)8373
FAX 06(6605)2769
発行人 齊藤 寿士

大阪市立大学工学部同窓会 第29号
2019年12月20日発行
大阪市住吉区杉本 3-3-138
TEL 06(6607)8373
FAX 06(6605)2769
発行人 齊藤 寿士

《 目 次 》

大阪市立大学工学部同窓会長挨拶	2
大阪公立大学の概要について	3
大阪公立大学工学部・工学研究科の概要について	5
大阪公立大学工学部の同窓会組織について	9
・大阪公立大学工学部の同窓会組織の概要について	9
・学科同窓会設立に向けて	10
機械系	10
電気系	11
化学系	12

都市系、建築系	12
・現工学部同窓会の今後の活動について	13
工学部・工学研究科の近況について	14
各学科の近況について	15
新型コロナウイルス感染症拡大による困窮学生への支援報告	18
2021年工学部入学生名簿	21
2021年工学研究科入学生名簿	22
研究者一覧	23
事務局便り	25
連絡先調査のお願い	27

ごあいさつ

大阪市立大学工学部同窓会長 齊藤 寿士



工学部同窓会員の皆さまには、日頃から同窓会活動に、ご理解・ご協力を頂き感謝いたします。工学部同窓会報37号「同窓会だより」発刊に当たり一言ご挨拶申し上げます。

新型コロナの緊急事態宣言は9月末に解除されましたが、まだまだ予断が許さない状況にあります。今年度の工学部同窓会はその影響で、「評議員会」は郵送による投票となり、「学生見学会」や「新任・若手教授による講演会」等、重要行事も中止いたしました。また同窓会理事会・役員会もリモート会議での開催となりました。

さて、ご承知の通り2022年4月に大阪市立大学は大阪府立大学と統合し、大阪公立大学が誕生します。新大学は12学部学域を有し、学生数約1万6千人の全国最大規模の公立総合大学となります。工学部は、現在の市大工学部6学科と府大工学域（工学部）9工学課程（学科）が統合され、12学科（両大学に共通する一部学科は統合される）の大きな学部となります。

両大学の全学および工学部同窓会は、統合に伴った新同窓会を設立するために協議を進めています。全学的な同窓会では、一本化を図るため市大全学同窓会と府大校友会（全学同窓会組織）との間で打合せを重ね、「大阪公立大学校友会」を2022年4月に立ち上げる予定で進めています。

工学部同窓会も統合後の新工学部同窓会の設立を見据え、両大学工学部同窓会関係者で年初から協議を開始しました。現状の府大工学部における同窓会は、市大の学部単位同窓会と大きく異なり、工学部同窓会が無く、学科単位の同窓会がそれぞれ独自に活動をしています。そのため、両者が協議した結果、府大学科同窓会を融合し工学部同窓会に一本化することに無理があると判断し、学科別単位同窓会を設立すると共に、各学科同窓会代表で構成した、緩やかな

連合体としての新工学部同窓会を2022年4月までに立ち上げる計画で推進しています。本構想については同窓会理事会で承認されました。

一方、市立大学工学部同窓会は、来年度からは新規会員や会費は入ってきませんので、資金面から同窓会行事は大きく制限されます。在校生対象（大阪公立大学工学部生）の行事を縮小し、主に卒業生対象とした行事を中心に活動することになります。現同窓会はいずれ解散し、新大学同窓会に移行しなければなりません。役員会では「現同窓会在り方検討ワーキンググループ」を設置し、卒業生中心の新たな活動計画や現同窓会の継続時期について議論しています。継続・解散時期についての大きな課題は、すぐには結論を出せる内容ではありませんが、期限を区切ってある程度の方向性を見いだしていきたいと思います。

来年度から同窓会は現行の体制から大きく変容します。もちろん大阪市立大学工学部同窓会は当面存続しますが、皆さまは全員いずれかの新大学学科同窓会に割り振られ、会員資格を持つことになります。新同窓会の情報や理事会、役員会の情報はホームページ等で適宜発信して参りますので、定期的に閲覧をお願いします。

さて、私は今年度の会長に選任されましたが、統合に伴う大阪公立大学校友会設立や、新工学部同窓会の設立に参画し、また現同窓会の存続について議論しなければならぬ大変な時期にお引き受けすることになりました。最後のご奉公と考え、微力ではありますが大任を果たせるよう努めて参りますので、皆さまのご支援、ご協力をおねがいします。

（応用物理学科 昭和44年卒）



2022年4月 大阪公立大学が開学

大阪市立大学 副学長（教学IR・新大学担当） 橋本 文彦



大阪市立大学工学部同窓会のみなさま、平素から大学への多大なるご支援をいただきありがとうございます。新型コロナウイルスの猛威によって、大学内外でも生活の在り方が大幅に様変わりしたところですが、みなさまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

ご承知の通り、大阪市立大学は大阪府立大学と統合して、2022年4月に「大阪公立大学」となります。

ここでは、大阪公立大学設置までの経緯、大阪公立大学のビジョンと使命、開学時の学部・大学院の構成や規模、将来に向けた動きなどをお伝えしたいと思います。

【経緯】

大阪市立大学と大阪府立大学の統合については、大阪府市の有識者の会議から2013年の「新大学構想＜提言＞」が提出されたことを始まりとして、2015年には両大学によって『「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）』がとりまとめられました。

そこでは、大学統合により、教育力、研究力及び地域貢献力の向上を図り、大阪のグローバルな発展を牽引できる新大学をめざす、という方向性が提示されました。

これまでのビジョンや基本構想をもとに、さらに具体的

な内容で、2022年4月の開学に向けた「新大学基本構想（案）」が、2019年8月に公立大学法人大阪によって取りまとめられ、従来の「教育」「研究」「社会貢献」という大学の三つの土台に加えて、「都市シンクタンク」機能と「技術インキュベーション」機能という二つの機能と、「スマートシティ」「パブリックヘルス／スマートエイジング」「バイオエンジニアリング」「データマネジメント」という四つの戦略領域が示されました。

これ以降は、文部科学省への新大学設置認可申請に向けて、両大学の対応する学部・研究科ごとにワーキンググループを結成し、綿密な連絡を取りながら、学部・大学院の構成、学生数、カリキュラム、学舎の所在地などを具体的に決定してきました。

【開学】

2020年10月に設置認可申請書類を提出、設置審査委員会からの意見に対する対応などを経て、2021年8月31日に文部科学省から正式に認可書を受け取りました。

大阪公立大学は、12の学部・学域に一学年当たり約3千人の学部学生と、大学院生で合計約1万6千人を有する全国で最大の公立大学となります。

学部と学生数、教員数の一覧

		教員数	学部生	大学院生	学生計
現代システム科学研究科	現代システム科学域	71	1040	110	1150
文学研究科	文学部	65	672	183	855
法学研究科	法学部	38	730	118	848
経済学研究科	経済学部	44	1180	68	1248
経営学研究科	商学部	40	1080	58	1138
都市経営研究科		13		127	127
情報学研究科		54		225	225
理学研究科	理学部	187	1196	505	1701
工学研究科	工学部	267	3045	1063	4108
農学研究科	農学部	69	600	180	780
獣医学研究科	獣医学部	45	240	52	292
医学研究科	医学部（医学科）	266	540	304	844
リハビリテーション学研究科	医学部（リハ学科）	24	200	45	245
看護学研究科	看護学部	71	640	130	770
生活科学研究科	生活科学部	59	612	146	758
国際基幹教育機構	国際基幹教育機構	64			
	計	1377	11775	3314	15089

※学生数は、全学年の合計

表に示した通り、12の学部・学域と、15の研究科を要する真の総合大学となります。

専任教員数も、現在の両大学の教員を合わせた約1400名で、大規模な大学にもかかわらず、これまで通り少人数教育を維持します。

開学時点でのキャンパスは、現在の両大学のまま杉本・中百舌鳥を中心として、阿倍野・羽曳野・りんくう・梅田等となりますが、新入学生は（おおよ）学部ごとに通学キャンパスが決定しています。

ただし、工学部1年生は、学科によって中百舌鳥キャンパスで学ぶ学生と杉本キャンパスで学ぶ学生とに分かれて、下記の国際基幹教育（全学共通教育）を受講することとなります。

大阪公立大学での全学カリキュラムとしては、これまで大阪市立大学で「全学共通教育」と呼んできたものを、「国際基幹教育」と新たに命名し、国際基幹教育機構に所属する教員が各科目のマネージャーとなって、全学の教員でこの国際基幹教育を担当します。

ここでは新たに、複数の学部の学生を混合した少人数の初年次ゼミナールを1年生全学必修科目とするほか、「情報リテラシー」科目が全学必修となります。

「第二外国語」「健康・スポーツ」科目は、大阪府立大学では選択科目でしたが、新大学では必修科目となります。また、大学院でも、「研究公正」という科目が全研究科必修科目となります。

学生のクラブ・サークル活動等については、両大学で一つに統合するものや、当面は中百舌鳥と杉本で別々に活動するものなどが併存します。特に連盟等があり「一大学に一クラブしか認められない」というものについては、両大学の顧問（＝教員）あるいは、OBOGの方とも相談しながら、何よりも学生自身の意向を確認しながら統一に向けて丁寧に議論を進めてきているところです。

両大学では、それぞれに海外の大学と協定を結んで、交換留学等を進めてきておりましたが、意外にも両大学の協

定先に重複が少なく、大阪公立大学としての協定先は大阪市立大学の時よりも大幅に増加する見込みです。コロナ禍によってむしろ培われた、国内外との遠隔授業と実際の留学とを組み合わせることで、より実質的で実践的なグローバル教育を行っていきます。また、大学院生や若手研究者が海外で発表するなどの機会を現在の両大学よりも強力に支援していく予定です。

大阪公立大学は、「めざすのは、大阪発、世界レベル」を合言葉に、THE世界ランキングでの200位以内を目指します。

なお、2022年4月以降の入学学生は「大阪公立大学」学生となりますが、2021年以前に大阪市立大学に入学した学生は、そのまま大阪市立大学学生として卒業することになるため、2024年度末までは多くの学生が大阪市立大学に在籍していることとなります。

【森之宮へ】

開学4年目の2025年4月には、森之宮に新キャンパスが完成する予定で、ここにはライブラリー（図書館）、国際基幹教育機構、文学部、生活科学部（の一部）が入ります。

これ以降、新入学生はまず森之宮で1～2年間の国際基幹教育を受け、その後に各学部の所在するキャンパスに分かれて、専門科目を受講することとなります。

この間に、杉本・中百舌鳥・阿倍野でもそれぞれ理学部や工学部などの学舎整備が行われます。

大阪市立大学を卒業された同窓生のみなさまのご活躍に恥じぬよう、あらたな大阪公立大学で良い教育・研究を行い、これまで通り優秀な卒業生を送り出していく所存ですので、今後とも見守っていただきたく存じます。

大阪公立大学開学までのホームページは下記の法人HP内にありますのでぜひご覧ください。

<https://www.upc-osaka.ac.jp/new-univ/>



大阪公立大学工学部・工学研究科の概要について

副工学研究科長・副工学部長 貫上 佳則



1 はじめに

これまで「同窓会だより」などを通じ、本学が大阪府立大学とともに来年4月から新大学（大阪公立大学）として新たにスタートすることはお聞き及びたと存じますが、文部科学省に提出していた設置申請が本年8月末に正式に認可されました。そこで、この場を借りて大阪公立大学の新工学部と新工学研究科の概要についてお知らせいたします。

2 これまでの経緯

まずは、これまでの経緯の概略について以下にお伝えします。

2013年に外部有識者で構成された新大学構想会議により「新大学構想＜提言＞」が提出され、その後、市会・府議会で否決もしくは議案提出見送りを経て、2014年から両大学による「『新・公立大学』大阪モデル（基本的な考え方）」及び「同（基本構想）」が公表されました。その後、2015年に市会と府議会において大学統合関連議案（中期目標変更）が可決され、副首都推進本部会議にて大学統合に向けた検討体制や進め方が決定されました。さらに、両大学教員との意見交換会を経て、市大執行部から2018年6月に「新大学法人中期目標（案）」と大学統合に向けてのスケジュール案が提示され、大学統合に向けた工学研究科の意見のとりまとめが要請されました。

これまで研究科長の諮問組織として市大の工学研究科・工学部の中長期にわたる改革について議論を進めてきた「あり方検討委員会」において、「新大学法人中期目標（案）」およびスケジュール案をもとに、新大学における市大工学研究科・工学部の形について議論を進め、教授会での議論や若手教員との対話を通じて複数の案を市大執行部に提示いたしました。その後、市議会や市長・知事に向けた報告と、関連する各種会合での審議を経て、2019年5月に市大工学研究科・工学部は大阪府大の工学研究科・工学域と統合して新しい工学研究科・工学部を構成することと、新工学研究科・工学部は中百舌鳥キャンパスに集約することが決定されました。

一方、2019年1月からは定期的に大阪府立大学の工学研究科・工学域の執行部の先生方との打ち合わせを開始して新工学研究科の専攻と新工学部の学科構成などについて議

論を進めました。2020年からは新工学研究科の各専攻と新大学工学部の各学科の代表者による「新工学設置準備委員会」を組織化し、各専攻・学科の構成と3ポリシー（卒業認定・学位授与の方針：ディプロマポリシー、入学者受け入れ方針：アドミッションポリシー、および教育課程編成・実施の方針：カリキュラムポリシー）、入試方法と入学定員、カリキュラム、研究分野、教員構成、キャンパス配置など、新大学の設置申請に必要な事項について各々意見集約していただき書類を作成し、各教員の個人調査とともに2020年10月に文部科学省に関連書類を提出するに至りました。

この作業と並行して、市大の各専攻・各学科の教員や学生のための居室、教室、および実験や実習などの関連施設の移転に伴う各種設備のリストアップと、移設もしくは新規整備の判定、移設費用・新規整備費用の概算調査についても、各学科・専攻の教員と施設課が中心になって整理していきました。

さらに今年度に入ってから、新たに入試委員会、教務委員会を組織化して、各学科・専攻の代表者とともに入試関連事項の詳細や、時間割・教室、履修規程や研究指導教員の資格基準などの各種規程についても検討しているところです。加えて、新工学研究科・工学部のPR活動についても広報チームを中心に活動頂いています。

3 学科・専攻の構成

図1に、大阪公立大学の工学部と工学研究科の構成（学科、専攻）、および現大阪市立大学工学部と大阪府立大学工学域からの教員の移籍について示します。新工学部は航空宇宙工学科から化学バイオ工学科までの合計12学科で構成し、大学院は航空宇宙海洋系専攻から量子放射線系専攻（独立専攻）までの合計7専攻で構成することになりました。その結果、新工学研究科・新工学部としては、専任教員数が284名、学生数は4027名にのぼり、公立大学では最大の規模となります。

図1に示す通り、建築学科、都市学科、及び化学バイオ工学科は大阪公立大学でもほぼそのままの名称や教員構成で学科を運営いたします。また府大にはない都市系専攻は新工学研究科でもほぼ現状のままで専攻を運営することに

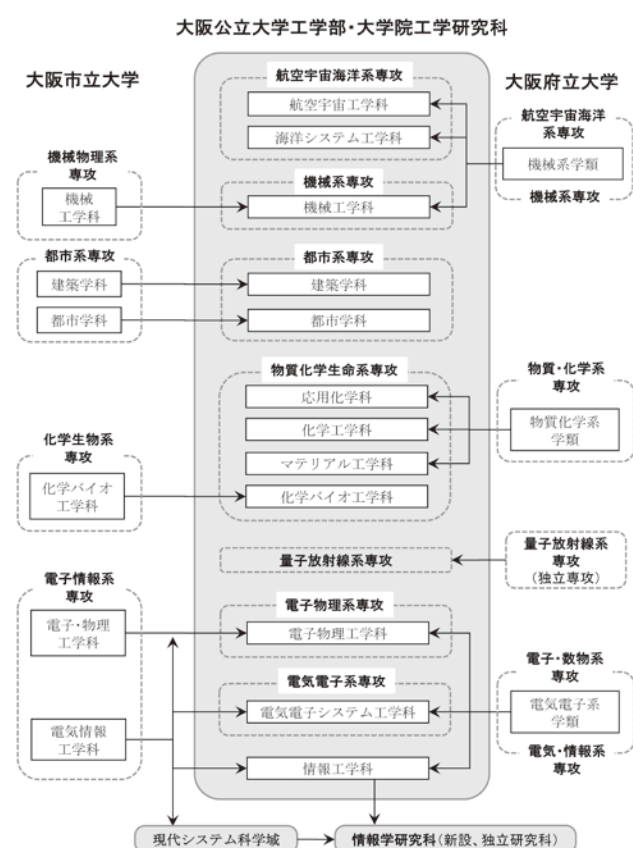


図1 大阪公立大学工学部・大学院工学研究科の構成と現市大・府大からの移籍

なりますが、化学バイオ工学科は、府大の物質化学系学類の先生方とともに、新しい物質化学生命系専攻として運営することになりました。

一方、機械工学科は府大の機械系学類の先生方とともに44名の専任教員で1つの大きな機械工学科と機械系専攻を構成することになりました。また、電子・物理工学科も府大の電気電子系学類の先生方とともに電子物性コースと電子材料コースの2つのコースを有する電子物理工学科と電子物理系専攻を構成することになり、45名の専任教員が教育研究を担うことになりました。さらに、電気情報工学科では、電気電子システム工学科と情報工学科、および電子物理工学科に各々6名、8名、および1名の現任教員が移動し、府大の電気電子系学類の先生方とともに各々の学科と専攻を運営することになりました。なお、情報工学科の大学院は工学研究科ではなく、他学部の教員とともに新設の情報学研究科(独立研究科)を構成いたします。加えて、創造都市研究科から電子情報工学科に転籍されていた6名の教員は、学部は現代システム科学域に移籍され、大学院は情報学研究科にて教育研究を担当することになりました。

その他、府大の工学研究科と工学域とに由来する5つの

学科と2つの専攻が新大学に設置されます。航空宇宙工学科では航空機や宇宙機の開発・運用に関する学問体系を、海洋システム工学科では船舶海洋工学や海事科学などの学問体系をそれぞれ担い、大学院では航空宇宙海洋系専攻として1つの専攻を構成します。また、応用化学科では分子・物質を対象とした学理解明や応用に関する学問体系を、化学工学科では化学工業製品の生産プロセスの基礎理論と応用に関する学問体系を、さらにマテリアル工学科では金属やセラミクス、高分子材料などの新素材の分子設計・創造に関する学問体系をそれぞれ担い、大学院では市大の化学バイオ工学科とともに前述の物質化学生命系専攻を構成します。加えて、X線などの放射線や加速器による量子ビーム等の応用と安全な取扱いに関する学問体系を担う独立専攻の量子放射線系専攻を設置いたします。

このように、市大の工学研究科・工学部の組織や教育・研究体制は府大と統合することで12学科、7専攻の工学研究科、及び情報学研究科に生まれ変わるようになりました。

また、教育面では、全学共通科目(従来の教養教育科目)が再編されること、学部でキャップ制が導入されることと、祝日による振り替え授業が一部の土曜に実施されることの3点が大きな変更点です。全学共通科目は基幹教育科目という名称に変更され、必修科目として新たに初年時教育科目と情報リテラシー科目が追加されました。キャップ制は、前期、後期、及び通年で各々履修できる単位数に上限を設ける制度であり、履修科目の予習・復習時間を確保して履修科目の習熟度を高めるために、多くの単位を登録し過ぎないようにする制度です。さらに、大学院では工学倫理関係の科目が新たに必修科目として各専攻に導入されることになりました。

4 学生定員と入試

表1と表2に、大阪公立大学工学部と大学院工学研究科の募集定員を示します。

工学部全体の募集定員は741名となり、現市大工学部の2.6倍以上の学生を収容し教育する大きな学部になります。また、図1に示した現市大、府大の教員構成に基づく新大学での学科構成により、各学科の募集定員は33名から128名と大きな差が生まれることになりました。さらに、入試方法もこれまでの一般選抜(前期日程、後期日程)と推薦入試ではなく、後期入試を取りやめて中期日程の入試を行うことと、総合型選抜(AO入試)を一部の学科で取り入れることとなりました。加えて、この表には記載されていませんが、大阪府立大学高等専門学校の卒業生を対象とし

表1 新大学工学部の募集定員一覧

学科	募集定員	一般選抜前期日程	一般選抜中期日程	学校推薦型選抜	総合型選抜	私費外国人留学生特別選抜
航空宇宙工学科	38	8	30	—	—	若干名
海洋システム工学科	33	10	19	—	4	
機械工学科	128	49	76	3	—	
建築学科	34	21	6	7	—	
都市学科	50	35	10	1	4	
電子物理工学科	108	33	72	3	—	
情報工学科	77	24	53	—	—	
電気電子システム工学科	65	21	44	—	—	
応用化学科	70	15	52	3	—	
化学工学科	38	8	30	—	—	
マテリアル工学科	43	10	30	3	—	
化学バイオ工学科	57	35	20	2	—	
合計	741	269	442	22	8	

表2 新大学大学院工学研究科の募集定員一覧

専攻	博士前期課程		博士後期課程	
	定員 (人)	推薦入試	定員 (人)	
航空宇宙海洋系	35	無し	4	
機械系	86	無し	8	
都市系	54	若干名	6	
電子物理系	80	若干名	8	
電気電子系	45	若干名	5	
物質化学生命系	145	若干名	19	
量子放射線系	7	若干名	3	
合計	452	—	53	

注1：博士前期課程、博士後期課程ともに、一般選抜試験、外国人留学生特別選抜試験、および社会人特別選抜試験を実施。いずれも若干名の募集（上記定員の内数）

注2：博士前期課程の推薦入試も上記定員の内数

注3：博士後期課程の推薦入試は実施しない。

た3年生（建築学科は2回生）への編入制度も新たに整備することになりました。

大学院では、博士前期課程と博士後期課程（新大学からはこのような呼称になります）の募集定員は各々452名と53名となり、現市大の定員の約2倍以上の学生を受け入れることとなります。また表2の注釈に示すとおり、博士前期課程でも社会人特別選抜試験を実施することになり、結果的に博士前期課程、博士後期課程ともに、一般選抜試験、外国人留学生特別選抜試験、および社会人特別選抜試験を実施いたします。

5 キャンパス配置と移行措置

図2に、市大の工学研究科・工学部の中百舌鳥キャンパスへの移転先について示します。中百舌鳥キャンパスへは3段階で移転することになり、まず2023年度末に機械工学科と電子・物理工学科、および電気情報工学科の教員（情報工学科に移籍される教員を除く）と関連設備が主として

図2のAに新築される工学部新棟に移動する計画です。また同時に、図2のBに実験施設の一部分が新設されるとともに、図2のCに工作技術センターの機能と機械工作室の機能を併せ持つ生産技術センター（仮称）が新設されます。次に2024年度の秋季までに図2のEのB4棟が改装され、情報工学科に移籍される教員がB4棟を共用でサテライト室として暫定使用され、2026年度末に正式にB4棟に移動します。最後に、2026年度末までに図2のDのA13棟とA14棟が改装され、建築学科、都市学科、および化学バイオ工学科の教員が移動し、同時に図2のBを中心に残りの実験施設が新設される予定です。そのため、2026年度末にようやく市大工学部の移転が終了する予定で、それまでの間は移行期間として杉本キャンパスと中百舌鳥キャンパスの両方で教育・研究を行う計画です。

一方、新大学工学部における基幹教育は、2024年度末に整備される新しい森ノ宮キャンパスで原則実施されますが、森ノ宮キャンパスが整備されるまでは、新大学の学生も現学生（市大工学部・工学研究科への入学生）も杉本キャンパスもしくは中百舌鳥キャンパスで基幹教育を受けることになります。

このように、2022年度から2026年度までの移行期間については、新大学の入学生と現学生が入り交じるだけでなく、図3と図4の通り、基幹教育、専門教育、および研究活動を実施する場所が順次変わることとなり、教員だけでなく学生への周知が非常に重要となります。すなわち、森ノ宮キャンパスが開設されるまでの3年間は、新大学の建築学科、都市学科、および化学バイオ工学科の新入生は、杉本キャンパスで基幹教育科目も専門科目も受講することになりますが、3学科以外の新入生は中百舌鳥キャンパスで受講することになります。そして、2024年度末に森ノ宮

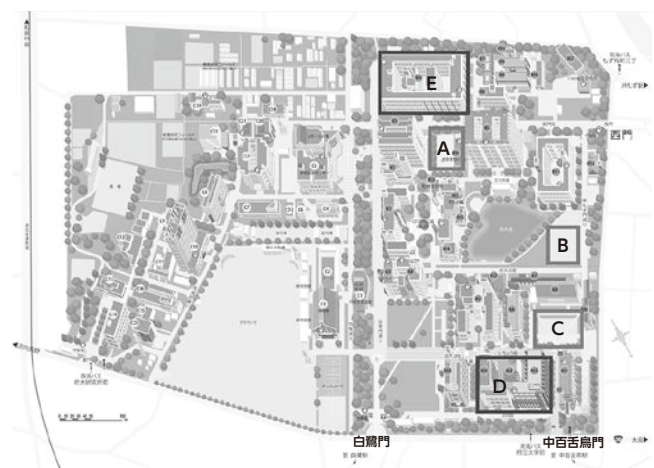


図2 市大の工学研究科・工学部の中百舌鳥キャンパスにおける移転先

キャンパスが開設されると、2025年度以降の新入生は全員森ノ宮キャンパスで基幹教育科目を受講することとなり、1年生の専門科目も森ノ宮キャンパスで提供することになります。2年生以上の基幹教育科目は、杉本キャンパス（上記3学科の学生のみ）あるいは中百舌鳥キャンパス（その他9学科の学生）で提供し、2026年度末に上記3学科の教員と関連施設の移動が完了したのち、2027年度からは1年生には森ノ宮キャンパスで、2年生以上には中百舌鳥キャンパスで各科目を提供することとなります。

このように、学生のキャンパス間移動を極力無くすように時間割や科目提供場所を工夫した結果、一部の専門科目の提供のために、現市大の教員が中百舌鳥キャンパスや森ノ宮キャンパスまで出向くことになり、教員のキャンパス間移動に伴う時間的な負担が発生いたします。加えて、市大の現学生の履修にも目配りが必要で、再履修科目が提供されるキャンパスが専門科目提供のキャンパスと異なる場合には、キャンパス間移動のための時間が余計に必要となるため、再履修用の講義を残したり、極力再履修しなくて済むようにガイダンスなどで注意喚起したりすることが重要となります。

なお、現在の大阪府立大学高等専門学校は来年度からは

大阪公立大学高等専門学校と名称変更され、2026年度以降に中百舌鳥キャンパスに移転し、図2のAの東隣にあるB3棟に入る予定で文科省に設置認可申請中です。これが実現すると、高等専門学校と新工学部との高大連携がより一層深まることが期待されます。

6 おわりに

市大工学部と府大工学域はいずれも70年以上の歴史を有しており、時代の要請に応じた再編を経て現在に至っておりますが、組織構成（例えば大阪府大は学部・学科ではなく、学域・学類・課程で構成）だけでなく、入試方法（前期日程・後期日程ではなく、中期日程）や予算、人事の進め方など、多くが市大とは異なります。そのため、大学統合時に短期間での抜本的な改変は困難であるとの共通認識から、上述のように現状の市大工学部、府大工学域の組織構成等をある程度反映した形で新大学工学部・工学研究科として開学することになりました。

今後、新大学とともに教育研究と組織運営を行うことで互いの研究領域やこれまでの経緯についての理解が深まるとともに、新大学としての一体感が醸成されることで、新工学研究科・新工学部が更なる高みに飛躍することを期待しています。

2022年度 新大学開学	学年				
		1年	2年	3年	4年
	新大学	中百舌鳥 杉本※1			
	大阪府立大学			中百舌鳥	
	大阪市立大学			杉本	

2023年度	学年				
		1年	2年	3年	4年
	新大学	中百舌鳥 杉本※1			
	大阪府立大学			中百舌鳥	
	大阪市立大学			杉本	

2024年度 中百舌鳥新築学会 開設	学年				
		1年	2年	3年	4年
	新大学	中百舌鳥 杉本※1			
	大阪府立大学				中百舌鳥
	大阪市立大学				杉本

※在籍する旧大学学部学生(統合学科)も必要の一部授業を除いては新大学学生と同じ

2025年度 森之宮キャンパス 開設	学年				
		1年	2年	3年	4年
	新大学	森之宮		中百舌鳥 杉本※1	

2026年度	学年				
		1年	2年	3年	4年
	新大学	森之宮		中百舌鳥 杉本※1	

2027年度 市大工学3学科集 約完了	学年				
		1年	2年	3年	4年
	新大学	森之宮		中百舌鳥	

※学部1～2年：基幹教育期間
※1：建築学科、都市学科、化学バイオ工学科

図3 移行期間における新大学工学部の教育研究実施場所の変遷

2022年度 新大学開学	博士前期課程 学年		
		1年	2年
	新大学	中百舌鳥 杉本※1	
	大阪府立大学		中百舌鳥
	大阪市立大学		杉本

2023年度	博士前期課程 学年		
		1年	2年
	新大学	中百舌鳥 杉本※1	
	大阪府立大学		中百舌鳥
	大阪市立大学		杉本

※博士前期課程学年進行完成年度

2024年度 中百舌鳥新築学会 開設	博士前期課程 学年		
		1年	2年
	新大学	中百舌鳥 杉本※2	
	大阪府立大学		中百舌鳥
	大阪市立大学		杉本

※在籍する旧大学院生(統合専攻)も新大学院生と同じ

2025年度	博士前期課程 学年		
		1年	2年
	新大学	中百舌鳥 杉本※2	

2026年度	博士前期課程 学年		
		1年	2年
	新大学	中百舌鳥 杉本※2	

2027年度 市大工学3分野集 約完了	博士前期課程 学年		
		1年	2年
	新大学	中百舌鳥	

※在籍する旧大学院生も新大学院生と同じ

2022年度 新大学開学	博士後期課程 学年			
		1年	2年	3年
	新大学	中百舌鳥 杉本※1		
	大阪府立大学			中百舌鳥
	大阪市立大学			杉本

2023年度	博士後期課程 学年			
		1年	2年	3年
	新大学	中百舌鳥 杉本※1		
	大阪府立大学			中百舌鳥
	大阪市立大学			杉本

2024年度 中百舌鳥新築学会 開設	博士後期課程 学年			
		1年	2年	3年
	新大学	中百舌鳥 杉本※2		
	大阪府立大学			中百舌鳥
	大阪市立大学			杉本

※博士後期課程学年進行完成年度
※在籍する旧大学院生(統合専攻)も新大学院生と同じ

2025年度	博士後期課程 学年			
		1年	2年	3年
	新大学	中百舌鳥 杉本※2		

2026年度	博士後期課程 学年			
		1年	2年	3年
	新大学	中百舌鳥 杉本※2		

2027年度 市大工学3分野集 約完了	博士後期課程 学年			
		1年	2年	3年
	新大学	中百舌鳥		

※在籍する旧大学院生も新大学院生と同じ

※1 都市系専攻、物質化学系生命系専攻(化学バイオ工学分野)、機械系専攻、電子物理系専攻、電気電子系専攻
※2 都市系専攻、物質化学系生命系専攻(化学バイオ工学分野)

図4 移行期間における新大学大学院工学研究科の教育研究実施場所の変遷

大阪公立大学工学部の同窓会組織について

大阪公立大学工学部の同窓会組織の概要

会長 齊藤 寿士 (S44 応用物理学科卒)

2022年4月に大阪市立大学（市大）と大阪府立大学（府大）が統合され、大阪公立大学（新大学）が誕生しますが、新大学工学部は12学科の大規模な学部になります。

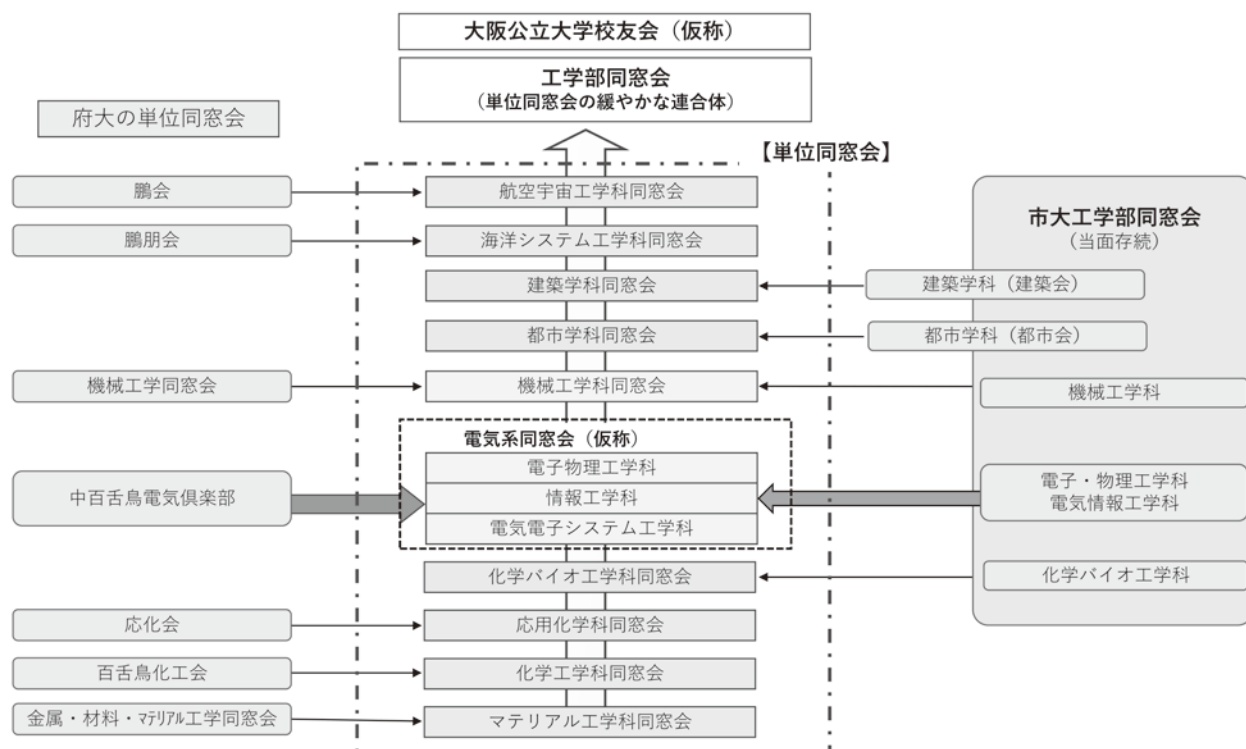
市大・府大両工学系同窓会は、新大学工学部発足に併せて、学科別同窓会を発足させ、同時に、学科別同窓会の緩やかな連合体の新大学工学部同窓会（仮称）を設立するべく協議をしています。具体的には、市大にある2学科（建築学科・都市学科）、及び府大単独にある5学科は各々現在の学科同窓会を引き継ぎ、化学バイオ工学科は新たに学科同窓会を設立計画です。一方、両大学にある機械工学科は合流し新たに機械系学科同窓会を設立します。また、市大の電子・物理工学科及び電気情報工学科は、新工学部では3学科に再編されるため、府大電気系3学科と新たに電気系同窓会を設立するよう準備を進めています。

大阪公立大学工学部学科同窓会の組織（案）を以下の図に示します。図中の市大工学部同窓会は、市大工学部生が2024年度末まで在籍しているので当面は存続させます。

各学科同窓会の設立に向けた検討経緯や現状の案については各学科の副会長に記述いただいたのでご覧ください。また、既存同窓会組織である「建築会」、「都市会」との協議内容も併せて示しています。

なお、以下の各学科別同窓会（いずれも仮称）には市大各学科卒業生が含まれます。

- ・化学バイオ工学科同窓会：(旧) 応用化学科、(旧) 生物応用化学科、(旧) バイオ工学科
- ・機械工学科同窓会：(旧) 知的材料工学科
- ・電気系同窓会（電子物理工学科、情報工学科、電気電子システム工学科）：(旧) 応用物理学科、(現) 電子・物理工学科、(旧) 電気工学科、(旧) 情報工学科、(現) 電気情報工学科
- ・都市学科同窓会（都市会）：(旧) 土木工学科、(旧) 都市基盤工学科、(旧) 環境都市工学科
- ・建築学科同窓会（建築会）



機械工学科同窓会設立に向けて

副会長 吉田 稔 (S52 機械工学科卒)

令和4（2022）年4月より、大阪府立大学（以下、府大といいます）と大阪市立大学（以下、市大といいます）が統合されて大阪公立大学（以下、新大学といいます）が発足します。これに先立ち令和2（2020）年末頃より開始された府大と市大の同窓会関連組織間の協議により、工学部に関しては、学科別同窓会を新たに発足させるとともに、学科別同窓会の緩やかな連合体組織として、工学部同窓会を発足させるという方針が定まりました。

本年4月より、府大の現機械工学科同窓会から現会長様ほかのご代表と、市大工学部同窓会の機械工学科卒の代表としての小職が中心メンバーとなって、新たな機械工学科同窓会の立ち上げに向けての協議が開始され、現時点において、協議メンバー間では、以下のような概要がまとまりつつあります。

【基本的な考え方】

新大学の機械工学科同窓会は、現府大機械工学科同窓会の会員と、市大工学部同窓会の会員のうち、機械系（機械工学科、知的材料工学科）に属する会員が合流し、新大学の機械工学科や機械系研究科、さらには前身大学該当学科や該当研究科の教員をも会員に擁して発足するとともに、新大学発足後、毎年4月に機械工学科の新入生を新会員として迎える、というものです。但し、早くとも、府大の現機械工学科と市大工学部の最後の卒業生が出る2025年3月までは、府大の現機械工学科同窓会と市大の工学部同窓会が併存することになります。2025年4月以降のいずれかの時点で現府大の機械工学科同窓会と、現市大工学部同窓会が活動を停止したとき、現府大機械工学科同窓会の会員と、現市大工学部同窓会の会員のうち機械系に属する会員の新大学の機械工学科同窓会への合流が完成します。

【財務に関する考え方】

新大学の機械工学科同窓会は、合流元の現府大の機械工学科同窓会会員および市大工学部同窓会の機械系の会員から新たに会費を徴収する予定はありません。したがって、新大学の機械工学科同窓会の活動は、当分の間、2022年4月以毎年新入生から徴収する終身会費（20,000円を予定）を収入とし、これをもって賄うことになります。これに対して、タダで会員となる者のためのサービス（例えば会報）に、新入生から徴収する会費を使ってよいのか、との意見が出る懸念がありますが、この点については、例えば、現府大の機械工学科同窓会および現市大工学部同窓会が活動を停止した後は、両者の財産を合理的に新大学の機械工学科同窓会の財産に組み入れる予定とすることにより、すでに納入した終身会費がいずれ新大学の機械工学科同窓会からの自ラへのサービスに使われ、または新大学の機械工学科同窓会の財産として活用されるということで理解していただけるのではないかと考えています。

上記した考え方に基づく会則案の策定は、最終段階にあります。

府大と市大の工学系同窓会組織はそれぞれ60年以上の歴史をもち、その中の機械系で現在連絡の取れる会員は、府大でおおよそ4,000名、市大でおおよそ2,000名であり、合計6,000名を越える多数に及びます。これらの会員が合流し、今後は新大学工学部機械工学科の入学生を迎える新たな機械工学科同窓会は、府大の機械工学科同窓会と市大の工学部同窓会の伝統を活かしながら、新大学との連携交流や会員相互の親睦をはかりつつ、未来に向けた大いなる発展が期待されるところです。

是非とも、皆様のご賛同、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



電気系学科同窓会設立に向けて

副会長 岩橋 正義 (S47年 電気工学科卒)

1. 新同窓会の設立検討

新たな工学部の同窓会は学科別同窓会を主体に運営する方針となり、それに伴い市大・府大の電気系同窓会関係者で構成されるワーキンググループが設置され、今後の在り方を検討することとなりました。

第1回会合を本年5月に実施し、それぞれの大学の同窓会の歩みと現状について報告しました。市大は工学部がまとまって同窓会を進めてきましたが、府大では古くから電気系学科が集まった同窓会があります。簡単に紹介すると、府大工学部のルーツは大阪高等工業学校で、その後浪花大学が設立され、1954年に同窓会「浪花電気クラブ」ができました。その後大阪工専および淀川工専の同窓会を合併し、電気系が集まった新たな同窓会を設立し名称を「中百舌鳥電気クラブ」としました。現在、会員は約6000人で、卒業生と教員で構成、会誌は本年4月に第55号を発行しています。この第1回会合では、大学統合と合わせて市大・府大の卒業生が一つになった同窓会とすること、及び電気系のいくつかの学科が各々独立ではなく一つの同窓会としてまとまることで意見が一致しました。

8月には、主に旧同窓会から新同窓会への移行の問題について話し合いました。9月から新同窓会の会則等の具体的検討を開始しました。またこの会議とは別に、7月に市大工学部電気系学科主任の先生方と会合を持ち、同窓会のあり方を相談しました。先生方からは「電気系は今迄も恐らく今後も学科の統合や分科が生じると思われるので同窓会はまとまっているのが良い」との意見をいただきました。なお、「電気系学科」とは市大・府大の電気電子系・応用物理系・情報系の各学科を含みます。市大の具体的学科名については「新工学部の同窓会組織の概要」を参照願います。

2. 新電気系学科同窓会の会則案

未だ検討中ですが、現時点では次のような内容で議論をしています。

新しい同窓会は、大阪公立大学に新たにできる電気電子システム工学科・情報工学科・電子物理工学科及び大学院の電気電子系専攻・電子物理系専攻が対象学科になり、ここに在籍する学生及び教員と卒業生が会員になります。この卒業生には、大阪市立大学の電気系学科と大阪府立大学

の電気系学科の卒業生（及びそれぞれの大学の前身の大学・学校の卒業生）が含まれます。

また、会の運営では役員会と評議員会を設置します。役員は会長・副会長・理事・監事で構成されますが、特筆することは卒業生及び教員に加えて学生の各学科代表が1名ずつ学生理事になります。これは、同窓会活動に学生の意見やニーズを取り込むことが目的です。学生と卒業生と教員が一体となって会の活動を活性化しようと考えています。期別評議員は、それぞれの大学の現評議員の方々に継続してお願いしたいと考えています。新同窓会の会員規模は、約8000人になります。

3. 今後の計画

今後は、新同窓会の活動計画の策定と、卒業生及び教員・在学生・新入生への理解を求めることが課題になります。卒業生の方々へはできるだけ早い時期に詳細を報告する予定です。

4月には新同窓会が発足します。市大と府大の卒業生が一体となった会のスタートであるばかりでなく、新入生が会員として参画してきます。活力ある同窓会とするために例えば「動画を多用したHP」や「学生企画のイベント」の推進、事務局の強化による「情報収集・発信力の向上」などを考えていきたいと考えています。これらの企画は固まり次第皆さんにご連絡させていただきたいと考えていますので、積極的な参加協力をお願いいたします。



化学バイオ工学科同窓会設立に向けて

副会長 神門 登 (S45年 応用化学科卒)

いよいよ2022年4月に大阪公立大学がスタートします。それに伴い同窓会組織も改編されます。

市大工学部では「工学部同窓会」が工学部の全学科をまとめて活動してきましたが、新大学工学部では「学科同窓会」を発足させ、各同窓会の連合体として「工学部同窓会」を設置する方向で、市大・府大の協議が進行中です。

市大の建築学科と都市学科では、既にある同窓会組織を新大学の学科同窓会に改編すべく準備が進められています。機械工学科、電子・物理工学科、電気情報工学科には同窓会組織はありませんが、府大の学科同窓会を基に新大学の学科同窓会に改編する作業が進行中です。

さて 新大学工学部には化学系の学科として、府大系の応用化学科、化学工学科、マテリアル工学科と市大系の化学バイオ工学科の4学科が設置されます。府大系の3学科にはそれぞれ同窓会組織があり、新大学の学科同窓会に改

編される予定です。

しかしご承知のことと思いますが、化学バイオ工学科には受け皿となる同窓会組織がありません。そこで化学バイオ系理事6名（山田、三浦、西口、安田、大嶋、神門）と化学・バイオ工学科教員2名（東 教授、北川講師）で、化学バイオ工学科同窓会の設立について協議を行ってまいりました。卒業生の皆様方には準備が出来次第設立に伴うご案内を差し上げる予定です。現在連絡が可能な卒業生（大学院修了者も含む）は2,000名弱です。多くの卒業生が、化学バイオ工学科が市大の良き伝統を受け継いで新大学に相応しい発展するよう願っています。卒業生の相互の親睦を図り、現役学生、教員、卒業生の新たな交流の機会を提供できる「化学バイオ工学科同窓会」を設立しましょう。

皆様のご支援とご協力の程をお願い申し上げます。

建築学科同窓会「建築会」、都市学科同窓会「都市会」との協議について

会長 斉藤 寿士 (S44年 応用物理学科卒)

副会長 宇野 勝久 (S49年 建築学科卒)

副会長 日野 泰雄 (S50年 土木工学科卒)

建築学科及び都市学科の同窓会、「建築会」と「都市会」は、これまで工学部同窓会とは一線を画した活動を永年続けてきた。大阪公立大学の設立に際しては、両学科とも府大に類似の学科がないため、それぞれの同窓会活動を継続しつつ、改めて新工学部同窓会との連携を具体化する必要がある。

そのため、工学部同窓会としては、新大学の各学科同窓会の連合体としての新工学部同窓会を設立するにあたって、その趣旨に賛同いただくとともに、他の学科同窓会とも歩調を合わせていただくべく、両同窓会代表と工学部同窓会役員間で意見交換会を行ってきた。

その結果、新工学部同窓会の設立（学科同窓会の連合体）と連携についてご理解いただくとともに、具体的な連携のあり方（運営参加・会員情報や会費徴収など）を検討いただける旨の回答を得た。

今後は、新工学部同窓会への活動支援金の提供、会員情報の取り扱いなどについて、両学科同窓会とも会としての総意を得るため詳細に検討していただく必要がある。そのため、両同窓会と継続的に情報共有するとともに、大学及び全学同窓会（新校友会）の動向も踏まえて、より合理的な仕組みとなるように府大工学系同窓会関係者とも協議しつつ成案を作り上げたいと考えている。

現工学部同窓会としては、新工学部同窓会の速やかな設立に向けて、できるだけ早く方針を具体化して、両同窓会との協議を進める必要があるとの認識を新たにした。



現工学部同窓会の今後の活動について

副会長 吉田 稔 (S52 機械工学科卒)

令和4（2022）年4月の大阪公立大学（以下、新大学といいます）の発足に伴い、大阪府立大学（以下、府大といいます）と大阪市立大学（以下、市大といいます）の同窓会関連組織間の協議により、工学系の同窓会に関しては、学科別同窓会を新たに発足させるとともに、学科別同窓会の緩やかな連合体組織として、工学部同窓会を発足させるという方針が定まりました。

一方、市大の工学部同窓会については、新大学発足後、終身会費の収入がなくなること、現市大工学部の最後の卒業生が出るのは、2025年3月であること、を前提として今後の活動の在り方を考える必要があります。

この問題に関し、「現同窓会の在り方検討WG」（以下、単にWGといいます）において種々の論点について検討してまいりました。以下に、このWGでの議論の概要を示します。

（1）議論の余地がない、あるいは異論がないと思われる点

- ① 現工学部同窓会の会員は、自動的に新大学の学科別同窓会の会員となる（あるいは会員資格を得る）。
- ② 現工学部同窓会が現有する会員情報もまた、新大学の学科別同窓会に引き継がれる。
- ③ 公開を前提とする新たな学科別同窓会の会員名簿への掲載や、同学科別同窓会からのサービスは、辞退することができる。
- ④ 2025年3月（市大工学部最後の卒業生が出るまで）までは、現会則を維持し、活動を続けることは可能。したがって、現時点で会則改正の必要はない。
- ⑤ 現工学部同窓会を2025年4月以降もしばらく存続させる。その場合、遅くとも2025年の2月の評議員会にて、その後の同窓会の目的を明示しつつ、施行日を2025年4月1日とした会則改正を行う。2025年4月以降の市大工学部同窓会の活動は、既卒者の

みを対象とした活動となる。

（2）意見が分かれると思われる点

- ① 全会員に対する新大学学科別同窓会への合流（サービスを受けるかどうか）の意思確認は必要か？

→この点に関しては、必要とする意見と、必要ないとする意見に分かれると思われますが、WGでは、そもそも現同窓会も、卒業生はすべて会員という建付けになっており、新大学の学科別同窓会は、府大と市大の各同窓会の会員情報や歴史を引き継いで新たな学科別同窓会となるのであり、その意味において、すべての会員に意思確認する必要はなく、新たな同窓会の発足後、サービスを辞退できることで対処すれば足りる、との意見が大勢を占めています。

- ② 現同窓会をいつまで存続させるか？

→この点に関しては、資金が続く限り存続させるべき、とする意見と、できるだけ早期に新たな学科別同窓会に活動の軸足を移すべき、との意見に分かれると思われますが、WGでは、2025年4月以降、現工学部同窓会は、既卒者向けの活動に限られるが、20代～50代の現役世代にとっては、いづれなくなる現工学部同窓会よりも、同時に会員となる新大学の学科別同窓会及び工学部同窓会のほうが、期待できる情報量や将来性からみて、より意義があるのではないか？このようなこと等から、早期に新大学の学科別同窓会の活動に軸足を移すべき、との意見が大勢を占めています。

今後は、以上概要を示しました議論を踏まえ、現工学部同窓会が具体的にどのような活動が可能か、との論点を中心に、皆様のご意見を拝聴しつつ、検討を進めることになると存じます。



工学部・工学研究科の近況

工学研究科長・工学部長 長崎 健



コロナ対応も世間並みに緩和され、多くの若者が行きかう通常の学舎に戻りつつある杉本のキャンパスです。まだまだ制限はあるものの10月15日からは課外活動も復活し、今月末に迫った銀杏祭の準備に忙しくしている学生も見かけます。同窓会の皆様もご存じのように8月27日に大阪公立大学の令和4年度開設が認可されました。工学部も新工学部としてスタートを切るために急ピッチで府大側と内規作成等の詰めの作業を行っています。

先ずは教員異動のお知らせです。本年3月末に、長年工学の教育研究活動にご尽力頂きました横川善之教授、中山正昭教授、岡 育生教授、畠中康夫教授、宮本佳明教授、逢坂勝彦准教授が定年でご退職され、また吉中 進准教授が転出されました。その一方で、4月には多根正和教授・東野昭太助教（材料物性工学）、中野 賢教授（通信基盤）、大野修一教授（情報処理工学）、横山智哉子講師（創薬生命工学）、古川 幸講師（建築防災）が着任され、呉 準席教授、蔡 凱教授、立花 亮教授、渋谷昌弘准教授が昇任されました。9月末には簾 関偉准教授が転出されましたが、10月から藤本まなと准教授（無線通信及びセンシング）、トラン ティ ホン講師（情報ネットワーク工学）、金子健作講師（建築構造学）、山口陽登講師（建築デザイン）が着任し、野口博史教授と倉方俊輔教授が昇任され、現在総勢106名の教員で工学部・工学研究科の教育・研究に取り組んでいます。より一層充実強化された陣容で来たる新工学スタートに備えています。

学生の動向ですが、令和2年度に学部294人、修士185人、博士9人が巣立つ一方、今年度は学部296人、修士214人、博士11人の新入生を迎え入れました。同窓会からは工学部・工学研究科の活動に対して多くのご支援を頂いておりますが今年度は特に昨年度に引き続きCOVID-19により困窮する工学部生・院生に対する工学独自の支援制度に対し基金からの寄附並びに「COVID-19困窮OCU工学生支援募金」に対して同窓会の皆様から多大なる支援を頂きました。改めてこの場をお借りしまして深謝申し上げます。詳細は別途掲載の報告ならびにお礼をご覧ください。

1953年3月大阪市立大学理工学部が廃止され同年4月に本工学部の歴史はスタートしました。初代工学部長古市亮

蔵先生から数えて21代目である小職の任期も残すところ5ヶ月余りとなりました。これまでに学士13,872名、修士5,992名、博士818名を世に輩出し、多くの同窓の方々が社会で活躍されている市大工学のDNAは今後大阪公立大学工学部・工学研究科に引き継がれていきます。これまで同様ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。大阪の南端杉本町から活動・学びの場は堺市中百舌鳥に移りますが、杉本における学舎の光景を記憶に留めておきたく知人の摂津市に在住する野並允温画伯に描いて頂いた初夏の杉本キャンパスの一コマ『前進』をご披露し最後の市大工学部長としての近況報告とさせていただきます。



各学科の近況について

機械工学科の近況

機械工学科主任教授

高田 洋吾



卒業生の皆様には益々ご健勝のことと拝察申し上げます。また、平素より本学科・専攻に格段のご支援をいただき、感謝申し上げます。

学生の入学ならびに卒業についてご報告いたします。令和3年4月には、機械工学科56名、機械物理系専攻修士課程39名の入学生を迎え、新年度をスタートいたしました。コロナ禍での学生生活には制限があったこともあり入学後半年を過ぎた今になって、ようやく学生間交流が活発になってきました。また、卒業生の進路状況につきましては、令和2年度末に57名が機械工学科を卒業、38名が大学院修士課程を修了し、様々な分野の企業へと就職いたしました。

次に教員の異動についてご報告いたします。令和3年3月末に、本学科の教育・研究に長年ご尽力された横川善之教授と逢坂勝彦准教授が定年によりご退職されました。一方、多根正和先生が教授として、東野昭太先生が助教とし

て、材料物性工学分野にご着任されました。

2022年4月の大阪公立大学開学が目前に迫ってきました。また、本学科も大阪府立大学の機械工学科と統合しますので、一学年に120以上の学生が所属する大変規模の大きい機械工学科となります。この統合に伴い、巨大規模の大学に対して夢膨らませるところも大いにございます。新大学になっても、学生に対しては、些細なトラブルで安易に諦めず、粘って粘って成果を勝ち取る姿勢を培わせたく、ひとり一人と向き合っていく所存です。一方で、大阪市立大学の名前が無くなることや杉本キャンパス工学部棟とお別れする近未来に対して哀愁を感じる今日この頃です。

最後となりますが、卒業生の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしますとともに、今後も、本学科へのご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

電子・物理工学科の近況

電子・物理工学科主任教授

寺井 章



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。まず、学生の進路状況についてご報告させていただきます。2021年3月に42名が電子・物理工学科を卒業し、そのうち10名が就職、4名が他大学大学院に進学、28名が本学大学院に進学しました。また、大学院では32名が前期博士課程を修了し、全員が就職しました。

教員の近況といたしましては、応用物理学科の時代から永年にわたり本学科の教育研究活動にご尽力くださり、それとともに光物性物理学の分野において多大なご功績を挙げられた中山正昭教授が2021年3月に定年退職されました。先生のご指導に感謝を申し上げますとともに、今後のご健勝をお祈り申し上げたいと思います。その他の教員の異動につきましては、2021年4月に渋谷昌弘特任講師が准教授に、呉準准教授が教授に、それぞれ昇任されました。

大阪市立大学は2022年4月に大阪府立大学と統合し、大

阪公立大学として新たに船出いたします。私たち電子・物理工学科も大阪府立大学の電子物理工学科と統合し、「大阪公立大学工学部電子物理工学科」として新しい歩みを開始します。1年次の学生定員108名、教員45名で、従来の市大の電子・物理工学科の2.5倍から3倍の規模になります。大学全体では、1年次の学生定員が2848名、教員は1206名となります。大学設置認可も下り、順調に準備が進んでおります。

しかし今後は、単に規模の大きさを誇る大学ではなく、外部からも優秀な人材を積極的に登用することにより、関西圏で京都大学と覇を争えるような、質の高い大学を目指して行かなければなりません。卒業生の皆様からも、ご指導ご助言をいただくとともに、一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念いたします。

電気情報工学科の近況

電気情報工学科主任教授

高橋 秀也



卒業生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

2021年4月には、49名の新入生が入学しましたが、前期は昨年度と同様に新型コロナウイルスの影響により、ほとんどの授業が遠隔授業となりました。後期は、大学での職域接種が順調に進んだため、対面授業が基本となってキャンパスに活気が戻ってきました。

このようななかでも、電気情報工学科への社会のニーズは高く、昨年度に引き続き、電気情報の関連分野に限らず異業種も含めた幅広い業種から求人をいただき、順調に就職が内定しております。学部4年生は、29名が本学大学院進学、2名が他大学大学院へ、6名が就職予定、前期博士課程では24名が就職予定です。

教員人事についてですが、2021年3月をもって、岡生教授が定年によりご退職されました。4月から大野修一教授と中野賢教授をお迎えし、それぞれ情報処理工学分野と

通信基盤分野をご担当いただいております。また、10月にはスマートセンシング工学分野の野口准教授が教授に昇任され、藤本まなと准教授とトランティホン講師をお迎えし、それぞれ無線通信及びセンシング分野と情報ネットワーク工学分野をご担当いただいております。異動の多い年度となりましたが、教育研究体制の充実を図ることができました。新大学において、学部では電気電子システム工学科、電子物理工学科、情報工学科に、大学院では工学研究科と情報学研究科に分かれて活動することになりますが、新大学においても大阪市立大学と同様、学生ひとりひとりと向き合った丁寧な教育研究を行っていきたいと考えております。

最後に、卒業生の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしますと共に、引き続き変わらぬご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

化学バイオ工学科の近況

化学バイオ工学科主任教授

立花 太郎



卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より化学バイオ工学科を様々な形でご支援いただき、厚くお礼申し上げます。

2022年4月、いよいよ大阪公立大学が開学します。化学バイオ工学科は府立大学の学科とは統合せず、現在の教育・研究体制を保ったまま、公立大学工学部全12学科の1つとなります。一方、大学院は、物質化学生命系専攻に名称が変わります。本専攻は、私たち化学バイオ工学分野の他、府立大学から合流される応用化学分野・化学工学分野・マテリアル工学分野の4分野からなり、その有機的な連携により教育・研究を進めます。また、大阪公立大学工学部は全学科が中百舌鳥キャンパスに集約されることが決っており、化学バイオ工学科は2026年度中に移転を完了させる予定です。ここ数年は杉本キャンパスにおりますので、卒業生の皆様はご都合がつかましたら、是非、懐かしい学び舎にお越しいただければと存じます。また、YouTubeの大阪公立大学工学部チャンネルには、本学科や研究室の関連動画をアップしておりますので、お時間がありましたら

ご覧ください。

教員の異動としては、2021年4月に立花亮准教授が教授に昇任されました。また、横山智哉子先生が講師として創薬生命工学研究室に着任されました。横山先生は本学科の卒業生で、県立・私立・国立の各大学で研究・教育に従事されたご経験を活かした活躍が期待されます。

コロナ禍ではありますが、卒業・修了予定者の中で企業への就職希望者は順調に内定をいただいています。これも卒業生の皆様が社会において活躍され、本学、本学科の評判を高めて頂いている賜物と感謝しております。また、化学バイオ工学科では大阪公立大学が開学するタイミングで学科独自の同窓会を設立する準備を進めております。詳細が決まりましたら、卒業生の皆様にはあらためてご案内いたします。引き続き、本学科へのご支援とご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

建築学科の近況

建築学科主任教授

徳尾野 徹



同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。この一年（現在2021年10月25日）、建築学科のフロアは、大変静かです。皆様も学生時代に多くの時間を過ごされたであろう、三密を空間化したような「製図室」も、閉鎖したり、制限付きで使用を許可したりを繰り返しています。時々のもいでも学生はほとんどいません。私の研究室は製図室の下部にあるのですが、物を引きずって移動させる音など、ちょっと鬱陶しいくらいがちょうどよいことに、今更ながら気づいている次第です。

2020年度学部卒業生33名の進路は、大学院進学20名、ハウスメーカーなどの住宅系7名、公務員2名、ゼネコン2名、その他2名です。大学院前期博士課程修了者17名の進路は、設計事務所6名、ゼネコン4名、設備会社2名、その他は構造材メーカー、不動産、鉄道などです。学部卒におけるゼネコン志望者の減少がやや懸念するところです。一方、2021年4月には35名の最後の「大阪市立大学」工

学部建築学科の新入生を迎えました。4年間で立派な建築人に育てていきます。

学生の対外的な活躍としましては、2020年度大学院前期博士課程修了の富田実加さんが日本建築学会近畿支部研究発表会にて優秀発表賞を受賞しました。同じく2020年度大学院前期博士課程修了の渡部麗杏さんが空気調和・衛生工学会近畿支部学術研究発表会にて奨励賞を受賞しました。大学院前期博士課程在学の川中大地さんと木村凌さんがともに、日本建築学会近畿支部の第11回アーバン・デザイン甲子園に入選しました。

教員の異動としましては、2021年3月末に宮本佳明教授と吉中進准教授が、ともに早稲田大学建築学科に転出されました。本学科としては大きな痛手ですが、10月1日には、有能な新たな人材が着任します。10月人事の紹介は、次年度学科主任の仕事なので、本年度はここまでとします。

都市学科の近況

都市学科主任教授

鍋島 美奈子



卒業生の皆様方には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素から学科への種々のご支援を頂き、厚くお礼を申し上げます。

2021年3月には都市学科9期生50名が卒業、大学院前期博士課程27名が修了し、2021年4月には54名（うち女子学生5名）の新入生を迎えることができました。教員の異動は、2017年10月から本学でご活躍された都市計画分野の蕭閑偉（しょうこうじ）准教授が2021年9月末をもって退職され、九州大学に転出されました。

学部卒業生51名（9月卒業の1名を含む）の進路は、約63%の32名が大学院前期博士課程に進学し（内1名は他大学）、残りの約37%の19名が社会人となりました。就職先は、公務員が8名（京都府1、奈良県2、大阪市3、京都市1、吹田市1）、民間会社が11名（橋梁1、コンサル3、インフラ系2、その他5）です。大学院前期博士課程修了生27名のうち、本学大学院後期博士課程への進学が2名、

残り25名の就職先は、公務員が0名、民間企業25名（ゼネコン2、橋梁3、プラント2、コンサル6、インフラ系3、メーカー4、不動産1、設計事務所1、商社2）となりました。最近では、従来から人気のゼネコン、インフラ系やコンサルタントだけでなく、プラントや環境設備機器メーカーなど幅広い業種に就職しているのが特徴です。卒業生の皆様方に、毎年学科主催の業界説明会などにご協力をいただいているおかげで、就活生へ学科独自の情報提供をおこなうことができ、学生にも好評です。また、これからは新大学都市学科の広報活動にも力を入れて全国から優秀な受験生を集めたいと考えています。受験生にとっても卒業後の進路は関心が高い項目であり、広報活動の重要な柱として、卒業生の活躍を都市学科のホームページ等で随時紹介していきたいと考えております。今後とも、卒業生の皆様には都市学科への忌憚のないご指導、ご助言をいただくとともに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大による 困窮学生への支援報告

長崎工学研究科長から届いた感謝状と学生への支援状況報告です。なお、学生の声は別添資料を参照ください。

感 謝 状

大阪市立大学工学部同窓会
会長 斉藤 寿士 殿

今年は梅雨入り同様秋の長雨も速歩での訪れを感じさせる異様な夏でしたが、皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

コロナ禍により学業を全うする上で困窮を深めていた大阪市立大学工学部生・工学研究科院生（以下、工学生）に対し、多大なるご高配を賜り心より感謝申し上げます。

皆様のご支援により昨年7月より支援を開始しました「COVID-19困窮OCU工学生支援制度」は本年5月末におきまして新規受付を締切り、基金残余の関係で8月分をもちまして支援を終了しました。次頁図1，2に示しますように、累計530名の工学生に総額2024万円という多額の支援を当初の想定（半年）よりも遙かに長く一年余りに渡って支援を継続できましたのは、皆様の力強い応援のお陰であり、本学工学生達は学業や研究室活動を継続する上で多大なる勇気を頂きました。受給した者のうち開始時点で6割以上、2021年度に入っては全員が研究室で活動する4回生以上の学生であり（図3）、それらの所属は各学科・専攻に渡っています（図4）。この9月に学位取得予定であるD3を含め、受給したB4・M2は全員無事に卒業・修了することができました。工学部・工学研究科の研究活動を継続する上でも非常に意義ある支援であり、ここに改めて工学教員を代表しまして深謝申し上げます。

「COVID-19困窮OCU工学生支援制度」の収支内訳は次の通りです。

収入 （合計 2,024万円）

民間企業3社 70万円

工学部同窓会 1,100万円

工学研究科の教育研究奨励寄附金間接経費 854万円

支援 （累計 2,024万円）

累計支援者数 530名

学生たちからも、本制度が如何に研究室活動を継続する上で大きな力になったかを示す感謝の声が寄せられています。それらについても別紙をご覧くださいと幸いです。

学内では希望者に対する2回のワクチン接種事業も終了し、6割を超える学生が接種を受けました。第5波の感染拡大は収束の気配すらありませんが、不安定な気候のもと夏の甲子園も実施されているように、若者の活躍の場がこれからも少しずつ通常に戻り、更に拡大していくことを願うばかりです。この危機を乗り越え逞しく成長した市大工学生達が社会のために活躍することを信じ、今後も学生達の指導を行ってまいります。より一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

令和3年8月

大阪市立大学大学院
工学研究科長 長崎 健

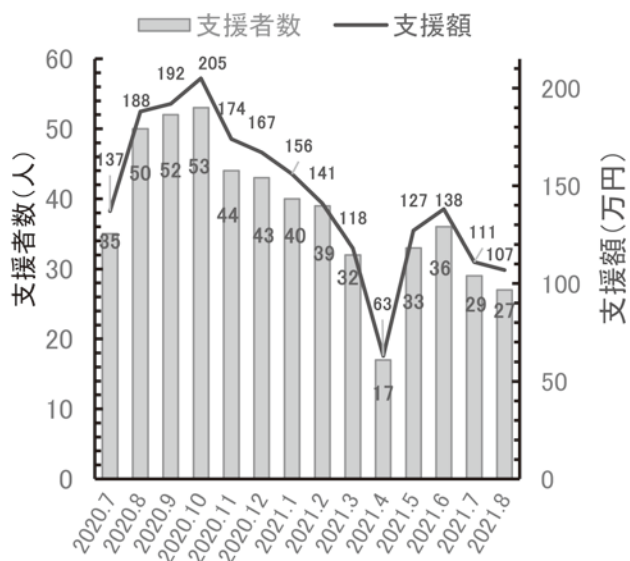


図1. 支援者数・支援額の推移

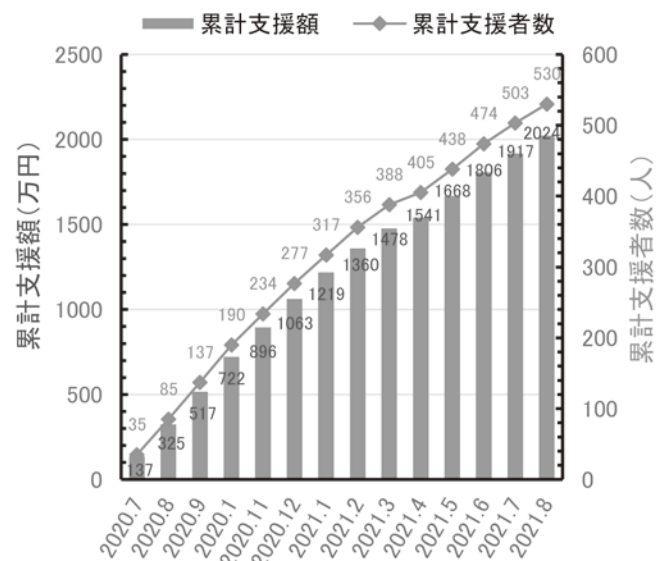


図2. 累計支援者数・支援額

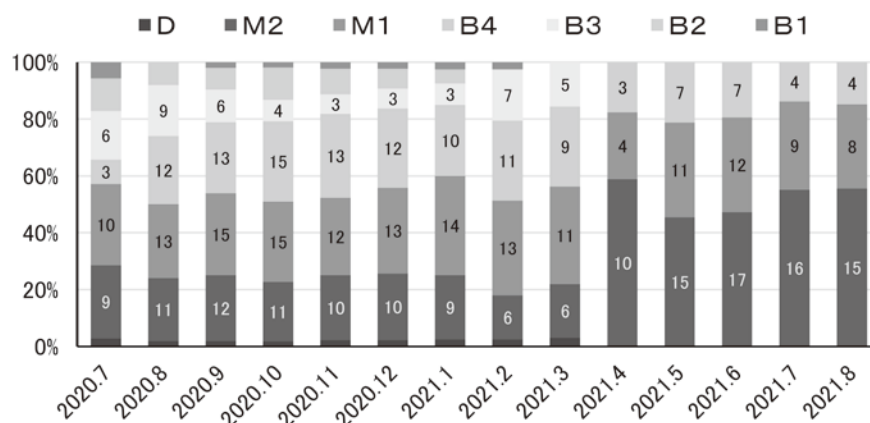


図3. 学年別割合の推移

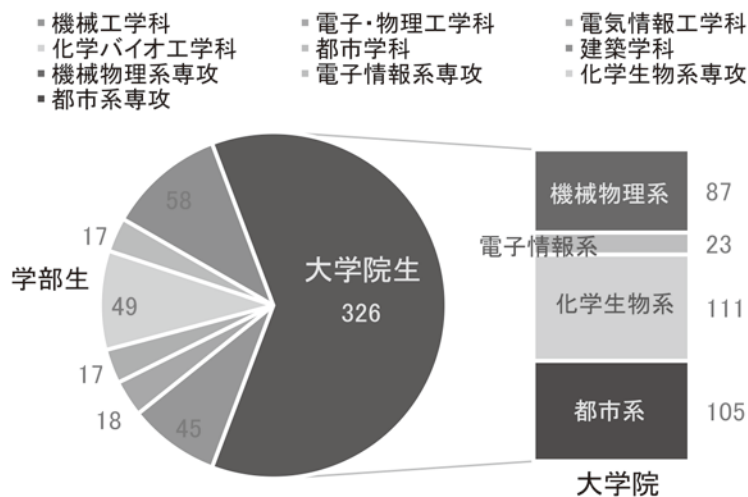


図4. 学科・専攻別の累計支援者数

募金にご協力いただいた方々（2020年11月1日～2021年4月27日、125名、321.1口、1,605.5千円）

括弧内は出身学科、卒業年。Sは昭和、Hは平成。都は都島工専。学科名の無い方は他大学出身。括弧外の＊は寄付2回目。太い数字は寄付口数。

現教員

徳尾野 徹（建S61）＊	4	吉田長裕（土H7）	2	大島昭彦（土S55）＊	2
--------------	---	-----------	---	-------------	---

元教員

青木修三（化修S36）＊	5	人見宗男（機S31）	4	東田淳（土修S47）＊	2
--------------	---	------------	---	-------------	---

卒業生（現・元教員を除く）

浅原浩介（物S38）	2	阿比留裕信（土H5）	2	天野健次（土H1）	2	栗野 裕（化博S62）	2
飯高幸男（物S48）	2	生田隆由（機S63）	2	池内秀次（物S52）	2	池田浩一（土S50）	2
池田博英（機S53）	10	石原照夫（化S47）	0.2	井舎英生（都市H18）	2	糸井 建（電S37）	5
稲葉章悟（化バH28）	1	井上 健（電S42）	1	伊原吉之助（都電S25）	10	岩間 清（機修S48）	2
植杉輝夫（電S51）	2	上田 進（土S53）	2	上田治文（物S46）	1	植田百合人（機S46）	4
上原 勝（建S51）	0.6	内田 敬（現）＊	4	榎谷新録（都土S26）	1	大垣賀津雄（土S59）	0.5
大河原 豊（電物H27）	0.5	大前秀治（物S56）	2	奥田拓也（建H27）	2	奥山 至（電S41）	2
小野 勝（機S33）	1	※小俣哲夫（化S47）	1	門田清人（土S49）	2	門田健太郎（物H20）	6
金山哲也（土S61）	2	紙西孝彦（建S49）	2	川上一夫（物S35）	6	川崎博之（物H24）	4
河村洋朗（機H11）	2	北川晴久（土S39）	20	城戸琢磨（電S63）	2	木村 智（機H1）	1
工藤宗芳（生H9）	1	倉本哲英（機H1）	2	小桑 徹（機S35）	2	小林俊明（土S44）	2
昆田祥幸（情H28）	1	紺谷真佐博（電S49）	2	坂口秀世（機S50）	2	坂 善光（物S57）	2
笹井 勲（化S42）	2	佐治明志（建S59）	2	佐藤 孝（電S35）	1	佐藤 勤（物S35）	20
島田洋一（機S41）	2	杉浦直人（電H5）	2	鈴木宏之（物H2）	2	鈴木理子（物S56）	2
高石 享（土S47）	2	高島佐太重（物S52）	2	高田昌彦（機S36）	0.2	高津良平（機H29）	1
高橋大悟（都市H26）	1	田口成二（機S49）	2	田口裕務（化博S58）	2	竹中恭二（機S44）	5
竹村泰彦（化修S43）	4	立花義弘（都電S24）	1	田中将裕（物H7）	4	谷浦 茂（電S52）	4
谷川和彦（電H10）	2	谷本真望（化バH29）	3	谷本隆一（機S50）	1	田村悟士（土H9）	6
当麻利明（土S40）	2	徳弘卓二（物S46）	4	富岡健一（土S54）	1	富永邦昭（機S52）	1
中村恭三（建S39）	2	中村正治（土S41）	2	西口 登（化S47）	1	西辻 豊（都電S26）	2
西出昭治（建S46）	2	西村 裕（土S47）	2	野田知哉（情H10）	6	野原栄二（物S40）	1
延廣玲子（土H14）	6	信本美貴（電S62）	2	長谷川恵一（土S50）	2	浜口 潮（建S37）	1
浜田正勝（建S40）	2	原田 洋（化S39）	6	半田哲士（機H10）	1	菱川隆吉（物S35）	2
廣石 仁（土S53）	2	福原裕治（建博H15）	1	藤井菜摘子（電情H26）	2	二星郁夫（化S29）	2
前戸鎮雄（電S53）	2	馬越正二（電S36）	1	増田有紀（化H24）	4	松岡敏郁（土S56）	1
松岡要三（機S37）	1	松尾純也（土H7）	2	松野健三（機S50）	2	松本滋雄（電S36）	0.2
三島一晃（機S57）	2	水野正博（土S49）	2	宮崎 聖（電S63）	2	村田大明（電H19）	2
村山泰男（土S50）	2	森井繁夫（建S41）	2	森下英利（土H8）	1.5	森本幹雄（機S42）	1
山中 悟（土S63）	0.4	山本周次（物S46）	2	吉川 淨（機S58）	2	若林寿夫（機S48）	6
分島幹夫（機S35）	1	渡辺浩史（電H4）	1	匿名希望	2		

「COVID-19困窮OCU工学生支援制度」支援募金 会計報告（円）

項 目	金額（円）	備 考
収入	8,293,209	
募金総額	8,211,500	468人、1,642.3口×5,000円
経常費より補填	81,709	
支出	8,293,209	
寄付総額	8,000,000	工学部・工学研究科に寄付
1回目	6,000,000	2020年10月13日
2回目	2,000,000	2021年3月5日
経費	293,209	
振込手数料	67,633	357件
切手	152,208	84円×1,812枚 2020年8月発送
はがき	37,800	63円×600枚 寄付御礼用
コピー代	21,650	
その他	13,918	封筒、プリンター用インク

注：2020年7月22日から10月31日までの間に343名の方から1,321.2口、6,606千円のご寄付をいただいています。ご協力いただいた方のご芳名は昨年12月発行の「同窓会だより」第36号に掲載しました。「同窓会だより」のバックナンバーは同窓会のホームページで見ることができます。

「COVID-19困窮工学生支援募金」
担当理事 東 恒雄（機械・昭和41年卒）

教員の大阪公立大学への移行先所属一覧表

(詳細は別添資料参照)

大阪市立大学での所属

教員名	職 位	専 攻
阿多 信吾	教授	電子情報系専攻
蔡 凱	教授	電子情報系専攻
大野 修一	教授	電子情報系専攻
中野 賢	教授	電子情報系専攻
中島 重義	准教授	電子情報系専攻
上野 敦志	講師	電子情報系専攻
安倍 広多	教授	電子情報系専攻
石橋 勇人	教授	電子情報系専攻
村上 晴美	教授	電子情報系専攻
大西 克実	准教授	電子情報系専攻
永田 好克	准教授	電子情報系専攻
吉田 大介	准教授	電子情報系専攻
呉 準席	教授	電子情報系専攻
金 大貴	教授	電子情報系専攻
重川 直輝	教授	電子情報系専攻
白藤 立	教授	電子情報系専攻
寺井 章	教授	電子情報系専攻
小林 中	准教授	電子情報系専攻
杉田 歩	准教授	電子情報系専攻
竹内日出雄	准教授	電子情報系専攻
武智 誠次	准教授	電子情報系専攻
福田 常男	准教授	電子情報系専攻
梁 剣波	准教授	電子情報系専攻
洪田 昌弘	准教授	電子情報系専攻
菜嶋 茂喜	講師	電子情報系専攻
田中 健司	助教	電子情報系専攻
仕幸 英治	教授	電子情報系専攻
田窪 朋仁	教授	電子情報系専攻
辻岡 哲夫	准教授	電子情報系専攻
野口 博史	准教授	電子情報系専攻
宮崎 大介	准教授	電子情報系専攻
吉本 佳世	講師	電子情報系専攻
高橋 秀也	教授	電子情報系専攻
伊與田浩志	教授	機械物理系専攻
加藤 健司	教授	機械物理系専攻
金崎 順一	教授	機械物理系専攻
兼子 佳久	教授	機械物理系専攻
川合 忠雄	教授	機械物理系専攻
高田 洋吾	教授	機械物理系専攻
多根 正和	教授	機械物理系専攻
山崎 友裕	教授	機械物理系専攻
内田 真	准教授	機械物理系専攻
大森 健史	准教授	機械物理系専攻
川上 洋司	准教授	機械物理系専攻
瀧山 武	准教授	機械物理系専攻
中谷 隼人	准教授	機械物理系専攻
脇本 辰郎	准教授	機械物理系専攻
今津 篤志	講師	機械物理系専攻
増田 勇人	講師	機械物理系専攻
大島 信生	助教	機械物理系専攻
東野 昭太	助教	機械物理系専攻
高井 飛鳥 (クロスアポイントメント)	助教	機械物理系専攻
藤本 恵美子 (クロスアポイントメント)	助教	機械物理系専攻

大阪公立大学での所属

[illegible]

事務局便り

評議員会報告

2021年の評議員会については新型コロナウイルス感染拡大を受け郵送による表決となった。

- | | |
|---|---|
| <div>議 案</div> <ul style="list-style-type: none"> ①2020年度(第24期2年度)事業報告 ③2021年度(第25期初年度)理事会役員案 ⑤2021年度予算案 | <ul style="list-style-type: none"> ②2020年度収支決算及び会計監査報告 ④2021年度事業計画案 ⑥その他 |
|---|---|

議案書抜粋

①第24期第2年度（2020年1月～12月）収支決算書

経常費

(単位円)

収 入			支 出		
項 目	予算額 (イ)	決算額 (ロ)	項 目	予算額 (イ)	決算額 (ロ)
終身会費	5,850,000	5,250,000	会議費	160,000	171,588
貯金利息	1,000	25	行事費	100,000	110,000
経常寄付	459,000	452,300	交流・懇親行事費	100,000	115,450
〔COVID-19困窮工学生支援制度〕支援金	0	7,350,770	広報費	1,860,000	2,020,908
(小 計)	6,310,000	13,053,095	会員データ管理費	200,000	187,000
前期より繰越金	5,675,753	5,675,753	協賛費	1,000,000	883,274
			渉外費	10,000	0
			事務局費	2,500,000	1,848,140
			通信費	100,000	37,933
			事務費	150,000	178,902
			備品費	50,000	64,369
			会費徴収費	30,000	32,516
			予備費	50,000	0
			特別基金へ振替	0	6,212,976
			(小 計)	6,310,000	11,863,056
			(年収支差額・当年度剰余金)	0	1,190,039
			次期への繰越金	5,675,753	6,865,792
合 計	11,985,753	18,728,848	合 計	11,985,753	18,728,848

②第25期第1年度（2021年度1月～12月）理事会役員

会 長：斎藤壽士 (物44)
 副会長：吉田 稔 (機52) 岩橋正義 (電47)
 神門 登 (化45) 日野泰雄 (土50)
 宇野勝久 (建49)
 会 計：黒山泰弘 (土50)
 理 事：東 恒雄 (機41) 宮本万功 (機43)
 笠上文男 (機50) 瀧山 武 (機59)
 中谷隼人 (知材H16) 建部 渉 (電35)
 行藤三男 (電36) 南 繁行 (電45)
 木村雅之 (電51) 西野修三 (電57)
 村治雅文 (電62) 西 邦夫 (電H13)
 山田文一郎 (化修40) 三浦洋三 (化42)
 西口克彦 (化43) 安田 裕 (化48)
 大嶋 寛 (化49) 浅井真一 (土48)
 廣瀬彰則 (土54) 大島昭彦 (土55)
 東 安彦 (土57) 上林恭子 (土H5)
 坂 壽二 (建42) 太田隆司 (建55)
 小西浩夫 (建56) 谷口徹郎 (建59)
 田守芳勝 (物38) 柳川重昌 (物44)
 山本 孝 (物45) 安木正志 (物55)
 大前秀治 (物56)
 監 事：志野 太一 (物40) 高桑久茂 (電46)

③第25期第1年度（2020年1月～12月）事業計画

- ①会報第37号を12月中に発行
- ②工学部・全市大行事及び事業への協力
- ③会員相互の親睦交流の促進
- ④特別基金の活用
- ⑤工学部同窓会奨学金基金の運用
- ⑥準会員（在学生）の工場見学の実施
- ⑦工学部・同窓会共催；新任・若手教授による講演会の実施
- ⑧同窓会の在り方検討

④第25期第1年度（2021年度1月～12月）経常費予算 (単位円)

収 入		支 出	
項 目	予算額	項 目	予算額
終身会費	5,250,000	会議費	160,000
貯金利息	1,000	行事費	200,000
経常寄付	459,000	交流・懇親行事費	0
COVID支援寄付	800,000	広報費	2,000,000
(年 合 計)	(6,510,000)	会員データ管理費	200,000
前期繰越金	6,865,792	協賛費	1,000,000
		渉外費	10,000
		事務局費	2,000,000
		通信費	100,000
		事務費	150,000
		備品費	10,000
		会費徴収費	30,000
		予備費	10,000
		特別基金への振替	2,000,000
		(年合計)	(7,870,000)
		次期への繰越金	5,505,792
総 合 計	13,375,792	総 合 計	13,375,792

2021年工学部卒業新評議員名簿

機械工学科	福中 喬祐	牧 美歩
電子・物理工学科	西岡 宏起	東尾 真吾
電気情報工学科	未 定	
化学バイオ工学科	園田 翔太	徳永 妙子
建築学科	島岡 優人	松山 勇貴
都市学科	多田 寛修	福辻 菜絵

第33回評議員会のお知らせ

評議員各位には当会の活動に種々ご協力頂き誠にありがとうございます。

さて、第33回評議員会を2022年2月26日（土）に開催を予定しています。なお、オンライン併用とする予定です。ただ、新型コロナウイルス感染症の状況により、別の手法（郵送等）に変更する可能性があります。

詳細は後日ご連絡しますのでよろしくお願いいたします。

理事会報告

第24期第8回理事会		
日 時	2020年12月16日午後6時から	
場 所	大阪市立大学文化交流センター 大セミナー室	
参加理事数	10名	
主な議題	①会長報告 ②事務局報告 ③評議員会の開催について ④新大学における同窓会の構成について	

第24期第9回理事会		
日 時	2021年2月3日午後5時半から	
場 所	オンラインで開催	
参加理事数	18名	
主な議題	①事務局報告 ②評議員会議案書について ③同窓会の今後について（WG設置等）	

第25期第1回理事会		
日 時	2021年4月7日午後5時から	
場 所	オンラインで開催	
参加理事数	13名	
主な議題	①会長報告 ②事務局報告 ③新大学全学同窓会について ④臨時役員会開催報告 ⑤工学部同窓会に関する府大工学系同窓会との協議状況について	

第25期第2回理事会		
日 時	2021年7月19日午後5時から	
場 所	オンラインで開催	
参加理事数	11名	
主な議題	①会長報告 ②事務局報告 ③新大学における同窓会活動（全学、工学部、学科単位）について	

第25期第3回理事会		
日 時	2021年9月21日午後5時30分から	
場 所	オンラインで開催	
参加理事数	15名	
主な議題	①会長報告 ②事務局報告 ③新大学全学同窓会について ④新工学部同窓会設立に向けた検討状況 ⑤学科単位同窓会設立に向けた検討状況 ⑥同窓会だより37号の発行について	

工学部同窓会の経常的活動費としてご寄付いただいた方

（2020年12月25日～2021年4月27日、37名、合計326,800円。太い数字は金額 単位：千円）

青木修三(化修S36)	25	青砥正典(土H3)	0.3	東 恒雄(機S41)	5	石原照夫(化S47)	1
糸井 建(電S37)	25	上田治文(物S46)	5	大垣賀津雄(土S59)	2.5	大河原 豊(電物H27)	2.5
岡本 豊(電S41)	10	小野 勝(機S33)	5	※小俣哲夫(化S47)	5	門田健太郎(物H20)	20
木村 智(機H1)	5	小西正憲(土S42)	3	紺谷真佐博(電S49)	10	斉藤壽士(物S44)	20
薩摩逸雄(物S33)	10	佐藤 孝(電S35)	5	佐藤 勤(物S35)	50	高岸秀康(物S36)	5
高島佐太重(物S52)	10	高田昌彦(機S36)	1	竹中恭二(機S44)	25	竹中利雄(化S34)	5
谷本隆一(機S50)	5	団栗知男(電S59)	5	富岡健一(土S54)	5	富永邦昭(機S52)	5
橋本健次郎(電S35)	10	浜口 潮(建S37)	5	福田裕繁(土S47)	3	松本滋雄(電S36)	1
森下英利(土H8)	7.5	森本幹雄(機S42)	5	山口和文(物S38)	10	分島幹夫(機S35)	5
渡辺浩史(電H4)	5						

工学部同窓会員連絡先調査へのご協力をお願い

同窓会員の皆様には毎年12月に「同窓会だより」をお送りします。また、大阪市立大学同窓会（全学同窓会）が発行する「全学同窓会報」も工学部の卒業生には工学部同窓会員名簿に基づき発送しています。しかし、毎年、100名前後の方への発送分が返送されてきます。また、工学部の卒業生（大学院進学者、都島工専卒業生を含む）は14,000人余りですが、約4,000名の方が連絡先不明です。

つきましては、転居の際には学科（専攻）名、卒業（修了）年、氏名、郵便番号、連絡先（現住所）を葉書、メール、または以下の同窓会ホームページの「連絡先変更依頼」よりご連絡ください。また、クラスメートに「同窓会だより」が届いていない方がおられたら、送付先を同窓会事務局に連絡するようお願いください。

工学部同窓会ホームページ：<http://kougakubu.osaka-cu.net/>

〈同窓会事務局連絡先〉

住所：〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

電話：06-6607-8373

Fax：06-6605-2769

メールアドレス：dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp



編集後記 同窓会だより第37号をお届けします。

今年も、昨年に続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に翻弄された1年間でした。10月下旬頃からは、感染拡大が落ち着いてきましたが、まだまだ油断はできません。

このような状況下で、来年の4月には、大阪市立大学と大阪府立大学が統合された大阪公立大学が、第1期入学生を迎えてスタートします。

この同窓会だより第37号は、大阪公立大学の特集号とさせていただき、大阪市立大学工学部同窓会の方向性、ならびに新たに設立予定の大阪公立大学工学部同窓会や学科単位同窓会の位置付けと役割について記載しております。まだそれぞれの組織の明確な方向性や役割等は、確定しておりませんが、来年の4月頃までには、ある程度確定する予定です。

大阪市立大学工学部同窓会の方向性と、新たに設立予定の大阪公立大学工学部同窓会等の位置付けについて、ご意見やご要望があれば、大阪市立大学工学部同窓会事務局へご連絡ください。

編集委員長 宇野 勝久（昭和49年建築学科卒）

「工学部同窓会の集い」開催中止のお知らせ

毎年2月に評議委員の開催に併せて開催しておりました「工学部同窓会の集い」は今般の社会情勢に鑑み残念ですが中止いたします。



投稿方法・事務局への連絡先

会員短信に投稿を希望される方は、工学部同窓会事務局にお問い合わせください。

☎ 06-6607-8373

✉ dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp